

# 糖尿病治療前線

## 国民病とどう向き合って闘えばいいのか 最新

大西俊一郎(おにし・しゅんいちろう) 医、日本内科学会認定指導医・認定内科

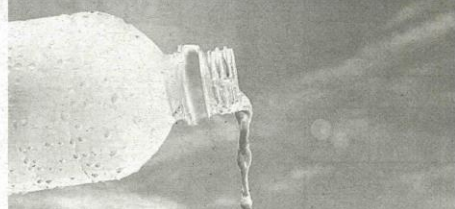


国際医療 福址大学医学部 指導医・老年科専門医、日本医師会認定 講師。千葉大学 産業医、日本医療マネジメント学会医療 卒業。同大学院 福祉連携士、日本スポーツ協会公認スポーツ 修了。日本糖尿病学会 日本糖尿病学会 日本糖尿病学会 病学会研修指導 ツシヨナルメデイカルコーチ。医学博 士。糖尿病専門 士。

子供を含めて日本人の6人に1人はかかっているのではないかとされているほど身近な存在。まさに国民病の名をほしいままに患者を増やし続けている糖尿病だが、血糖値が高いたけだけでは痛くもかゆくもないことが多く、それが患者の治療意欲を下げる要因にもなっている。

「医学的に根拠のある対策」を紹介する。前半の2回は、糖尿病という病気の基礎知識と、この病気が引き起こす合併症、中でも「目」に起きる合併症について検証する。

「糖尿病とはその名の通り「血液中の糖分(血糖値)が過剰な状態」を指す。血糖値が高くても、くかかる危険性のある病気の症状もないことが多く、近年の日本では、よく「糖尿病になるは、特に65歳以上の「高血糖」と言われる」とは、



「現在、空腹時の血糖値は126以上、食後2時間の血糖値が200以上、それが進んだ状態の『目の濁き』がまだないからと安心できない」

「国際医療福祉大学成田病院糖尿病・代謝・内分泌内科講師の大西俊一郎医師が解説する。」

「症状がないなら治療なんてしなくていい」と考えがちだが、それは危険だ。糖尿病は症状がないまま色んな臓器にダメージを与えていくのだ。「糖尿病が原因で臓器がダメージを受けること」

「『目』『腎臓』です。多くの場合、この順に合併症も出てくるので、その頭文字を取って「し・め・じ」と覚えておくといいでしょう」

# 症状がないうちから「し・め・じ」合併症を警戒せよ

「し・め・じ」と覚えておくといひ、神経がやられると足のしびれや冷え、こむら返りなど「足の症状」を中心に、下痢や便秘、めまい、動悸(不整脈)、E D(勃起不全)などさまざまな症状が現れる。一方、腎臓がダメージを受けると、腎機能が低下する「腎不全」となり、血中の老廃物を尿として排泄することができなくなる。そして、人工透析や腎移植など大掛かりな治療が必要になることもあるのだ。

さらに、もう一つの代表的な合併症が「目の病気」である。最悪の場合、失明に至ることもある糖尿病による目の合併症。あす詳しく解説する。(長田昭二)